

# 矢作川流域圏懇談会通信

H29 市民会議編 vol.1



発行日：平成30年1月  
編集・発行：矢作川流域圏懇談会事務局

## ◆矢作川流域圏懇談会第8回市民会議を開催しました！

12月22日（金曜日）に第8回市民会議が豊田市職員会館にて開催されました。今回の会議では、流域連携テーマやイベントの活動実績および今後の活動方針について、活発な意見交換を行いました。



日時：平成29年12月22日（金）14:00～16:00  
会議場所：豊田市職員会館2F 第1会議室  
参加者：15名（事務局含む）

## ◆主な会議内容

### 1.流域連携テーマ・流域連携に関わるイベントの実施状況

#### 流域連携テーマ①：木づかい

- 木づかいガイドラインの作成では、「さあ～しよう」という提案を市民、行政、業界、研究者に対して依頼する予定で、山部会では市民編について情報共有と意見交換を行いました。事例集交流会等のイベントで実践したいと考えています。
- 木づかいライブ・スギダラキャラバンにおいて、流域内外で約40回（平成29年度実績）におよぶ木づかい推進を行いました。
- さまざまな木のある暮らしのアイテム提案では、どこでもシリーズ、動く木のおもちゃ、流域ものさしなどを展示・提供し、市民（親子）に親しまれました。



動く木のおもちゃ

#### 流域連携テーマ②：土砂

- 東幡豆のトンボロ干潟では、平成27年に矢作ダムの土砂（約30m<sup>3</sup>）を用いて造成しました。以降、定期的に自然環境の変化を調査しています。造成1年後には大型のアサリが確認され、良好な環境が創出されていることがわかりましたが、造成2年後の今年、小型のアサリしか見られませんでした。今後も継続的な環境調査を行い、造成の効果の持続性を確認する予定です。



造成箇所を確認された生き物

#### 流域連携テーマ③：ごみ・流木

- ごみに関しては、懇談会独自で漂着ゴミの調査を行ったり、海底の生き物およびゴミ調査のイベントに参加したり、さまざまな活動を行って参りました。今年度は、奈佐の浜プロジェクトが主催する藤前干潟エクスカージョンに海部会を中心に参加しました。この活動では、名古屋市のごみ焼却場を見学し、海ごみの実態を視察しました。また、伊勢湾の漂着ごみの現状と各NPOの活動報告、市民・行政・学識者が集まりごみを減らすためのグループ討議およびアイデア出しが行われました。



ごみを減らすためのグループ討議



事例集交流会

#### 流域連携イベント

##### ●事例集 交流会（H29.4.15 根羽村）

山村再生担い手づくり事例集に掲載された団体の代表者に現況をご報告いただき、意見交換を行いました。新たな発想の展開や人間関係を育む場として、大変有意義なイベントになりました。

##### ●矢作川感謝祭（H29.9.2 豊田市）

これまでは、豊田市民を対象とする川のイベントでしたが、今年度は山部会の部会員も実行委員会に加わり、参加団体には矢作川の上下流の農業、林業といった山の関係者も参加する流域を対象としたイベントに拡大しました。

##### ●海ごみ減らそうフォーラム（H29.11.25 岡崎市）

愛知県主催の本フォーラムは、フィールドワークとして、矢作川支川の猿渡川と家下川で川ごみの実態を視察しました。その後、環境省における補助金制度、国土交通省の川ごみの対策、JEANによる奈佐の浜プロジェクトの活動報告、参加者によるワークショップが行われました。懇談会のメンバーも多く参加した活発な意見交換会となりました。



海ごみ減らそうフォーラム

## ◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

### ●流域連携テーマ・流域連携に関わるイベントの実施状況について

- ・矢作川感謝祭では、岡崎森林組合から岡森フォレストーズが森に関する歌で会場を盛り上げた。また、豊田森林組合からは高性能林業機械による枝払いや玉切りの実演があり、市民に対して森や林業に興味を持っていただくきっかけになったと思う。(今村)
- ・木づかいに関して、安城では補助金が出るようだが、そうなるまでにずいぶん苦労したのではないかと。(光岡)  
▶ はじめは自腹を切った。そのうち実績と真剣に取り組む姿が認められてオファーがくるようになった。(今村)
- ・ごみ・流木、土砂、木づかい、これが全部につながるのが「流域ものさし」だと思っている。流域人口 160 万人の 1%に行き渡ったとしても、共通のアイテムとして活かせると思う。(野田)
- ・トンボロ干潟の造成干潟の結果については、どのように考えているか。(今村)  
▶ 造成 1 年後は貝が多かったが、2 年後である今年は貧栄養の問題もあり減少していた。しかし、造成された場所は、何もしていない場所に比べ生物が残っていたことから、効果はあったものと考えられる。(高橋)  
▶ 新たな供給がなければ、おおよそ 10 年で効果はなくなるものと思われる。(井上)
- ・土砂については、矢作ダムで堆積砂を下流に流そうと検討している。また、栄養塩に関しては、矢作川や豊川の浄化センターで、冬季にリンを流す実験が行われるようだ。(末松)  
▶ 川の浄化センターでは、リンの排出をほとんどゼロに抑えている。しかし、生物のためには完全にゼロにしない方がよく、環境基準ギリギリまで出したらどうかという意見が聞かれた。(光岡)  
▶ 海部会の鈴木先生がかなり前から言われていたことだが、ようやくいろいろ実験されるようになった。これは、矢作川流域圏懇談会の成果だと思う。(高橋)

### ●今後の流域連携に関する課題と解決手法の検討

- ・豊橋河川事務所が事務局である懇談会でないと、産官学民の形がもたないと思われる。また、懇談会で発せられた意見が行政に伝わらないのではと懸念している。(浅田)  
▶ 流域圏懇談会が始まった時は半信半疑で会員になったが、想像以上に意見が世の中に通じることがわかった。山川海の横のつながりも増加し、実績はかなり上がっていると感じる。(高橋)  
▶ 豊橋河川事務所が懇談会を管理している、他の行政は入りにくいのも事実だ。また、河川に身近な団体が懇談会に來ないのは、河川管理者が管理をしている組織だからだ。(山本)  
▶ 流域圏懇談会は、皆さんの手で動かしてほしいというのが我々の願いだ。(服部)
- ・山部会では事例集を作っているから、興味・関心があれば、その人に会いに行くことができる。アプローチとしては、川をいかだで下りながら、流域の人や物を体験できれば面白い。(今村)  
▶ 矢作川にはダムがあるから、パーツに分ける必要があるが、駅伝みたいな感じで、竹や木のいかだで下る競争をしてはどうか。それができれば、全国放送するくらいのニュースになるだろう。(浅田)  
▶ 川下りをイベントにしようというのは非常に良い提案だと思う。その際、弁当と一緒に砂を運べば、どれだけ大変な作業を自然の水が運んでいるかわかる。過去の懇談会で議論になった砂の運搬ができるのではないかと。(野田)
- ・矢作川方式は報道機関をうまく利用したことで広がった。矢作川のイベントもできるかぎり報道しやすい環境を作るとよい。そうすれば、若い家族をはじめ、さまざまな市民を巻き込むことができると思う。(野田)
- ・河川区域に区画を設けて、団体等に貸してはどうか。そうすれば、河川に対する市民の意識が上がると思う。(菅原)
- ・ここから先は、もちろん各部会も大切であるが、部会同士の横のつながりが大切になると思う。(高橋)  
▶ 年に数回の市民を中心とした希望者が集まる会。つまり合同部会を行ってはどうか。(光岡)  
▶ イベントには、部会に関係なく参加できれば良いと思われる。それには、垣根なく行ける雰囲気が必要だ。(高橋)



### ●振り返り

- よかったと思うこと**：懇談会の在り方について、改めて議論ができた。/良い発言機会が得られた。/盛り上がった意見交換となった。
- よくなかったと思うこと**：平日・年末という開催時期のため、市民層が少なかった。/流域連携の今後について、話し合いの時間が少なすぎである。一巡、二巡と参加者に意見を回すことにより、活発な意見交換ができたと考えられる。
- 今後取り組んでいきたい活動など**：今回発言された提案について、グループワークで詰めてみたい。/本川の川下り、リバーウォーク駅構想、干潟供給砂運などのイベントは面白いと思われる。/各部会の活動成果について、情報交換したい。
- その他**：部会合同の勉強会は有効だった。懇親会は潤滑油になるが、出られないこともある。お茶付きテーマWGも良いかと思う。

## 今後の流域圏懇談会の予定

### ■第7回全体会議

日時：平成 30 年 3 月 20 日 (火) 14:30~16:30 西三河総合庁舎 10 階 大会議室

### ◆お問合せ◆

#### 矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 松山、副所長 末松  
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100 調査係長 服部

\*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト (yahagigawa@ijnet.or.jp) までお送りください。

